

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 7月 17 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200478		
法人名	有限会社ステア		
事業所名	グループホーム湯来		
所在地	広島市佐伯区湯来町白砂423 0829-40-5353		
自己評価作成日	平成30年6月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200478-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200478-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年7月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の笑顔のある生活。
--------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、周りに田が広がるその中に近代的な工場やゴルフ場があり、自然豊かな山の中腹に立地している。母体の(有)ステアは、各地の7社で構成される「遊感美想（YKB`s）グループ」の1社で、その運営理念は「自然・安心・快適」「1. 緑の風そよぐこの地で、生き生きと楽しく、自然と共に安心・快適な環境を支援…」「2. 本人の主体性を尊重…」で、湯来の地に特化した実践に繋がっている。管理者は、地域との交流を重視して、地元の地域活性化や町興しの活動に積極的に関わっており、また認知症への理解を広げるため認知症カフェ実施も進めている。利用者へのサービスの向上には、まず職員の質向上が重要と考えて、自主性に任せる方針により業務を担当者制として自ら学ぶ姿勢を求め、質の向上に繋げることが期待されている。
--

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「自然、安心、快適」を理念に掲げ朝礼等で唱和し利用者様の事を理解し尊重した介護の支援を心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事などに利用者様と一緒に参加し、職員は施設周辺の掃除なども行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年3回地域の草刈りや掃除などに参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに運営推進会議を行い事業所での状況などを報告している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険認定調査などを申請したり、市町村担当者に手続きなどで分からない事があれば直ぐに連絡を取り指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	やむを得ない場合はご家族様に状況を説明し同意書に記入して頂いた上での拘束をする。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体ミーティングや市町村の研修などに参加し学び、理解し実行している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	各種関係機関と連携し包括的な支援を行う佐伯区生活課への相談、業務を行う。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者がご家族に説明し理解を図っている。改定時は家族の同意を得る。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様に状況を説明し選択を求める。請求時に利用状況を書面で説明し意見を求めている。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの日程を設け職員からの提案や改善策を聞き入れ代表者へ報告し検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者自ら現場に入り職員個々の動きを把握し共感して協力的に動く事で職員の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員間で疑問があれば話し合いお互いの知識を交換し合う事で技術向上させている。研修の機会を設け参加する事により知識を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会、相互訪問等の活動は現在出来ていないが、電話連絡などでの際、情報交換する事でサービスの質の見直しをしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	家族とのコミュニケーションを密に取り、本人の趣向やなじめる環境の情報を聞き入れ安心して過ごせるようご本人とのコミュニケーションも大切にしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前の面会などを通して必要な介助の度合いや認知症の進行度合いを把握する。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前にミーティングで職員が情報を共有し対応を話し合う、入所判定委員会を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お盆拭きや洗濯物干し、たたみ等出来る事は声掛けにて手伝って頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要な物品や対応があれば家族様に連絡、相談する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会があれば居室にてゆっくり過ごして頂く無理のない外出、外泊のお願いや地域の行事への参加等		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り利用者様の会話の手助けをするようにしている。トランプ等している利用者様の所に出来る方に声掛けをして参加してもらったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	電話対応などで様子を聞いたりしている。不便があればいつでも利用してもらえるように伝えたりしている。年賀状を送付している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外への散歩へ職員付き添いで行ったりしている。歩行の不安定な方は建物の外を見守りにて歩行される。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの情報を確認して把握している。コミュニケーションが可能な利用者様には直接聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	足のむくみ等がある方は歩行の声掛けを行い見守りにて歩行やその場での足踏み等を行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングを行いそれぞれの意見を反映した現状に即した介護計画を作成している。スタッフミーティングや申し送り等でた意見等を検討し現状にあったケアをしている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践、結果、気づきを記入し職員間で情報を共有し実践につなげている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況、ニーズに柔軟に対応するよう取り組んでいる。個々に合わせその時の状況にあったケアを実践している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事に参加し楽しむ事が出来るように支援している。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診診断</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を重視し家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	パソコンの掲示板やホワイトボード等を利用し常に看護職員や訪看等に情報を提供し対応を受けている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護職員を通じ職員間で常に状況を把握し相談、対応できるようにしている。病院内でどのような対応されているか生活されたかを記録したものを共有している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、本人確認の指示が入らない状況の場合主治医との連携を取り合いながら家族への説明、方針を伺い支援できるようにしている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員間で役割を決め管理者への報告、バイタルチェックを欠かさず行っている。実践対応できるように常に身につけるよう努めている		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行い役割分担し地域とも密接に関わり合いを持っている。テレビやその他の情報をいち早く受け取り対応している。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として尊敬しその尊厳を守り身の回りのお世話をさせていただく。という気持ちで言葉遣いに留意しながら接するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話を通じて親近感を高め思いや望みを話しやすい環境に整え全体のバランスの中で利用者の思いを表現できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り利用者のペースで進め、ペースを乱さないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望者には美容師が訪問しカットをして頂いている。入浴時の着替えや日々の服も職員と一緒に考え選んでいる。また、男性の髭剃りも見守りにて行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前後のテーブル拭きやお盆拭き等して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	利用者一人一人の毎日の体調管理を行い食事量や水分摂取量に気をつけ提供できるよう支援している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	ご自身で行える利用者は声掛けを行いそうでない利用者は介助や見守りで口腔ケアを行っている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	定期的にトイレ誘導し排泄を促している。		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	食事での対応と腸内体操などをレクリエーションなどで行っている。一人一人の周期を確認し主治医や訪看に相談し指示を仰いで便秘薬などを提供する。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	週3回声掛け見守りにて入浴されている。ご自身で入られない利用者は全介助にて気持ちよく入浴して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	時間で定期巡室し安全を確認している。ホールで過ごされたり居室で休息したり自由に出来るよう支援している。室温、湿度なども確認している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問看護や看護師に報告し指示を仰いでいる。服薬の情報をファイルし職員が何時でも確認できるようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々のコミュニケーションからの情報を得て行事、レクリエーションなどに取り入れ楽しんで頂けるよう努めている。		
49	18	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域の方の協力のもと、行事などに参加させていただいている。家族との外出は家族の協力のもと実施されている。		
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者からの希望があれば自動販売機からジュースなどを購入されている。散髪代などはご自身で支払いをされている。		

自己評価	外部評価	項目( Bユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者から希望があれば家族了承のもとで電話で話されている。手紙はいつでも対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ホールの飾りを季節ごとに変えたり居心地よく過ごして頂くために清潔を保持し気温に応じての室温・湿度に注意し配慮に努めている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室とホールを自由に行き来できるようにし、席の配慮をすることで利用者同士のコミュニケーションがスムーズにいくように支援している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の要望を聞き入れ必要なものは家族に連絡し持参や送って頂いている。居室内の配置は過ごしやすいよう本人もしくは家族と相談しながら決めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者個々の身体状況を把握し職員間で情報共有し自立支援を心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念である「自然、安心、快適」を掲げ利用者を尊敬や理解する気持ちを持ち、支援している。朝礼時に理念を唱和し職員全員が理念を共有することに努めている。	運営理念を、事務所の受付前や会議室に掲げ、また朝礼時には唱和して共有している。理念の実践に向けて、管理者は職員一人ひとりに目標を提示している。職員は、納得した目標の達成に向けて、自ら考え実践する中で、理念を理解し、サービスの向上、自らの成長につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の清掃や草刈り等に参加し、夏祭りや敬老会に地域の方を招待し、参加案内を呼びかけて交流を図っている。	地域の仲間として受け入れられ、地域行事等の情報も町内会から得ている。地域と事業所で互いの敬老会に相互交流したり、銭太鼓や地元高校太鼓部、フラダンスといった地域ボランティアの訪問もある。また地元在住職員の子供が友達と訪問し、利用者とは交流するほほえましい場面もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	月初めに職員で施設周辺の清掃ボランティアを行い、地域行事(とんど、盆踊り、敬老会、草刈り)等に積極的に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度定期的で開催し家族、利用者、地域民生委員、町内会、地域包括支援センター、施設職員が参加している。会議では施設の現状報告(事故、行事、職員の入職、利用者の入居等)や、参加者からの質問や意見交換など行っている。	地域に開かれた事業所として、広く参加を呼びかけ、地域包括支援センター、地元民生委員や利用者代表、家族代表、そして提携する医療関係者やグループ関係者が出席し、情報交換している。議事録は必要なものは事業所内に掲示して公開し、また家族会でも報告している。	現在、家族には議事録が送付されていないが、毎月、各利用者の担当職員が家族宛に、日常生活状況等についての手紙を送付している。今後、それに議事録を同封して送ることで、利用者の状況や事業所の活動状況を共有し、運営に反映させるよう期待します。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の案内、報告書を提出している。他、相談等、佐伯区役所の介護保険課に赴き行っている。	職員は、介護保険課に直接訪問して担当者に相談、指導を受けており、関係性を築いている。また役所からの研修の案内等を受けた際には、積極的に参加している。	

自己評価	外部評価	項目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員が身体拘束マニュアルを熟読し報告・連絡・相談のもと、ケアマネージャー指導にて禁止している。尚、一時的に拘束を行わなければならない事例が発生した場合は、家族と相談し同意を求める書類を作成している。	事業所独自のマニュアルを作成し、年1回勉強会も実施しており、外部研修にも積極的に参加している。玄関は自動ドアで解放されているが、内扉は防犯上の観点から施錠している。また目が不自由な方への対策を含め、レーザーセンサーを活用している。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	広島市ホームページの虐待防止マニュアルをもとに、施設職員研修を行い日常の様子や入浴時での身体確認、利用者からの訴えに耳を傾けるようにしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設の玄関に成年後見人制度のパンフレットを置き、必要であればご家族からの相談も受けている。佐伯区役所生活課とも密接な関係を築き、地域包括支援センターとも連絡を取りながら権利擁護を学ぶ機会を作っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書、重要事項説明書を家族に順次ゆっくりと説明している。改定時はキーパーソンに理由説明を行い理解を頂いている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関に苦情用紙、及び苦情意見箱を設置し、家族が来所された折には会話時間を持ち意見、要望がないかを確認かめている。また、利用者からの直接の意見、要望についても内容により家族に相談し出来るだけ応えるようにしている。	利用者、家族とは、なんでも言って貰える関係性を築き、全職員で対応して現場に反映させている。特に利用者からの意見等は、管理者が直接聞いて対応する仕組みがある。受けた意見、苦情等は全てパソコンに記録し、職員は必ず確認するルールのもと、共有している。	

自己評価	外部評価	項目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ユニットごとのミーティング、月に一度は全体ミーティングを行い、意見交換の場を設けている。</p>	<p>定期的に開催されるユニット別または全体ミーティングで気付きや課題を話し合っている。職員は、研修や行事企画などの業務を担当し、各々がアイデアを出し合っており、運営に活かす取り組みがある。管理者は、全員の意見を聞いて事業所案をまとめ、法人の管理者会議で報告、提案している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個人面談を行い、要望や意見を聞き、改善・向上等について話し合いを持っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>個人面談にて、希望を聞きながら研修案内の紹介をしている。外部研修時間のとれない職員に対しては、施設内研修を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>月一回、グループ内の管理者が集まり、情報交換や勉強会を行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居利用開始前に、直接利用者本人と面接を行い、不安な気持ちを取り除くようにしている。なじみの品の持ち込みや環境づくりに配慮し、出来るだけ本人と、家族の要望、意見を取り入れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者本人との面接内容に基づき家族との話し合いをしている。いつでも話し合いが持てるような関係づくりをしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用者本人や家族の意見を聞き、優先順位の確認をし、職員間で初期情報の共有を図っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者とのコミュニケーションをとり信頼関係を構築しながら、安心して生活をしていける環境を提供し、利用者本人の希望を確認しながら安全対策を怠らず同じ目線に立ち、利用者の生活を支えることを心がけている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族に対して、報告連絡相談を持ち、来設しやすい関係を保つようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>会話の中から利用者のなじみのある人や場所を聞き、家族やネットなどからも情報を集め、利用者本人に発信する様になっている。</p>	<p>一人ひとりとの会話の中から、丁寧に生活を辿り情報を集めている。状況に応じた対応を心がけて、馴染みの人との交流も利用者の気持ちを大切にしながら進めている。知人、友人の訪問があれば面会時間外でも歓迎している。新しい関係性として、地元高校生や職員の子供との交流がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>フロアの円形テーブルにて、会話やレクリエーションを楽しんで頂き、食事もほとんどの方がフロア円形テーブルにて食されている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>ご家族に定期的に手紙、電話や訪問し現在の様子を伺っている。</p>		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中から本人主体に検討し、家族からも情報を得て本人の希望に添えるように努めている。</p>	<p>利用者ごとの担当職員制をとっている。職員は、利用者一人ひとりの日々のさりげない会話やその表情、状況から、思いや意向を汲み取ってアセスメントに繋げ、個別ケアに活かしている。洗濯物を自分で干したいという利用者の要望に応じてテラスを造った経緯もある。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人、家族から情報を得て、必要であれば過去に利用した事業所へ連絡を取り、確認を行っている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>毎日バイタルチェックを行い、全体で体操やレクリエーションを日々実行している。個人で過ごされる時間帯は、手芸、折り紙やぬりえなど個人でやりたいことをやっていただきながら現状の把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者の生活行動を、現場職員等が気づいたことや利用者本人の訴えを聞き、管理者、ケアマネ、職員でモニタリングを行い介護計画に活かしている。</p>	<p>ケア会議は、定期的開催し、本人、家族の意見を中心に、全ての職員からの情報や意見も集約し、また医療関係者の意見も入れて、介護計画を作成している。管理者と担当職員、ケアマネジャーは定期的なモニタリングにより現状に即した対応を行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子を記録し、パソコン内の申し送りや掲示板で職員間での情報の共有をはかり、毎月のスタッフミーティングで情報交換を行い、ケアプランの確認を行っている。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>外出外泊は家族からの要望があればいつでも対応できるようにしている。また、送迎が必要であればできるだけ対応している。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>春は地域内のお花見、夏は地域盆踊り、冬場は地域のとんど。近隣の家庭の庭園にお邪魔し、四季を感じて頂いています。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居契約時の重要事項説明時に主治医・協力病院の説明、案内をし、家族、本人に了解を得ている。受診時にはできるだけ多くの情報を持参し、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>全員が、近隣の協力病院を主治医として通院・往診を受けている。医師は月2回、看護師は週2回の往診がある。また近所の薬局とも連携しており、急を要する場合には早い対応が取れる利点がある。なお眼科などの専門科の通院には家族が付添うが、時に職員が付添う場合もある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	一週間に一度訪問看護に来て頂き、利用者の様子を報告、相談をしている。必要に応じて主治医の支持を受け対応し記録に残している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に職員が定期的に伺い、入院先の病院より情報を得ている。退院後に必要な栄養管理などの指導も受けている。各病院の医療連携室にも定期的に訪問し、病院との関係づくりを行っている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医の所見・意見を家族とともに聞き、その後家族の想いを聞きながら施設でできることを説明し、家族とともに方針を決めて行くようにしている。家族、主治医との連絡を密にし、救急時に備えている。	看取りに対応しており、事例もある。本人・家族の意向に沿って医療機関と連携した支援体制ができています。事業所独自のマニュアルも作成され、職員の勉強会も行われている。本人・家族の希望、状況に沿った対応を心がけており、事業所内でご葬儀を行った経緯もある。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急時の対応や、応急手当の研修を行い、救急時の連絡先、連絡網、マニュアルを見やすい箇所に貼り、緊急時に備えている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、定期的に消防訓練も踏まえ訓練や確認を行っている。避難訓練には利用者の参加もお願いし、避難経路の確認や避難場所を確認している。地域の青年団との交流も図っている。	消防訓練の内1回は、夜間を想定している。また地元青年団との協力関係が構築されたり、災害時の最適な避難場所として隣家との協力関係もできている。警報時には、夜間2時間おきに管理者から確認電話を入れるなど、万全を期している。法人内の協力体制もあり、水や軽食等の備蓄もある。	

自己評価	外部評価	項目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者に対する声掛けの仕方や、言葉使いに注意を払い、接遇などの研修を行っている。ミーティングを行い周知徹底をしている。	職員は、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように、まず利用者とのコミュニケーションを第一に考えて日頃から、表情(笑顔)、声掛けの仕方、言葉使いの3つに注意して対応している。課題があればミーティングの機会も利用して指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	着替えをするとき本人と一緒に服を選んだり、強制的にならないように配慮している。水分補給の時間はコーヒー、紅茶、お茶の中から選んで頂きその日の希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レクリエーションや体操を行う場合、出来るだけ声掛けを行うが、強制はしない。食事後もテレビを見たり、談笑したり、居室に入られたり自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容にて希望者はカット、カラー、パーマ等が出来るようにしている。男性は定期的に髭剃りを行い、爪切りは訪問看護で行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ホールと対面キッチンになっており献立について会話をしながら食事を作っている。利用者にテーブルやお盆拭きを手伝って頂いている。	食材は専門業者に委託し、職員が調理・配膳している。利用者の体調に合わせてきざみ食等にも対応している。食事時には、先日のボランティアによるフラダンス曲をBGMに、美味しく盛り付けられ、栄養バランスが取れた食事が食卓を賑わせている。行事時には、お好み焼を皆で焼いて楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項 目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎時、食事量や水分摂取量を確認し、記録している。嚥下や状態により刻み食にしたり、トロミをつけている。食事量の少ない利用者には、医師の指示のもと栄養補助飲料を飲んで頂いている。水分摂取量の少ない利用者には、ゼリーや他の飲み物で対応している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床後、毎食後口腔ケアを促し、職員の見守りの中実施している。一人できない利用者には、介助にて行っている。治療が必要な場合は、家族と相談しながら訪問歯科の受診をし治療を行っている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的に声掛けを行い、トイレ誘導し記録している。自立の利用者も間隔があいているようなら声をかけ、トイレを促している。	利用者の排泄サインや排泄ペースを、パソコンと日誌に記録し、全員で共有している。夜間は、声掛けを基本にしながら念のためおむつも利用して対応している。夜間の声掛けと誘導により、歩いてトイレに通えるようになり、結果ポータブルトイレを外した例もある。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取量を管理し、毎日の体操に参加して頂いたり、散歩の声をかけ歩行や身体を動かすことを勧めている。排便の管理もしており、便秘の利用者は医師に相談しながら便秘薬を処方してもらっている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	夏は週三回、冬は週二回入浴日を設けている。拒否があるときや入浴困難な利用者には清拭、陰洗足浴などを行っている。	入浴を嫌がる利用者には、職員が巧みに声掛けをして入浴に繋げている。入浴時に介助職員は、会話を楽しみながら、肌荒れやケガ、あるいは虐待痕の確認を行う貴重な時間としている。介護ロボットも導入されているが、肌感覚での介護、対応を行うため、ほとんど使用されない実情もある。	

自己評価	外部評価	項 目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>食後各居室にて休んで頂いたり、 ホールでくつろいで頂いてる。年 中施設内温度を確認し、季節に 合わせて湿度や温度管理をして いる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>職員同士で情報の共有をしてい る。また、服薬の目的や用法等 について記載された資料をファ イルにとじており、何時でも確 認が出来るようにしている。主 治医往診時に症状等があれば報 告し指示を仰いでいる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>家族からの情報や利用者とのコ ミュニケーション会話の中から 情報を得て、レクリエーション や行事などに取り入れて楽しん で頂けるように努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>地域や近隣の方に協力を頂き、 庭園の散歩や地域行事に参加さ せて頂いている。家族との外出 も家族の協力で行っている。</p>	<p>近くに商業施設がないため、日 常の買い出し等はできないが、 施設内の菜園でトマトや野菜の 世話や自販機で好きな飲み物を 購入したり、近所の民家の協力 で見事な庭園内を巡る散歩を 楽しんだりしている。また家族 からの強い要望で、本人と家族 、職員と一緒に外出し食事を 楽しんだ例もある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>家族の協力のもと、お小遣い程 度のお金を所持して頂き、必要 な時にご自身で支払っていただ くようにしている。自販機のジ ュースなどを買われている。ト ラブルが起きないように窓口は 管理者が行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( Cユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>事業所内では、電話や手紙等のやり取りは利用者・家族間でおこなわれている。ただし、電話については家族と前もって相談した後に使用して頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用部には行事やお知らせ等の写真や案内を貼り、ホールの壁面には利用者や職員がレクリエーションなどで作成したものを飾っている。環境衛生には特に気を配り、チェックや確認を欠かさないようにしている。</p>	<p>季節ごとに、職員と利用者が一緒に飾りを作成しており、壁面には七夕飾りや浮世絵が並び、天井からは色とりどりの飾りが吊り下げられて賑わいを演出している。またそこに集う利用者同士の「空間づくり」を課題と捉え、その雰囲気を良くするよう職員は特段の注意を払っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合う方同士で会話が出来るよう、座る位置を工夫したり、また利用者が孤立しないように職員が間に入り場をつなぐようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>安全面を考慮しながら、家族や本人と相談しながら持ち込みをして頂いている。</p>	<p>ベッドと空調設備が備え付けで、その他は、利用者の想いのこもった調度品が持ち込まれ、自宅の生活の延長線上に配置されている。中には、仏壇や、好みの服を持ち込んで入浴前に職員と一緒に選んだり、個々の生活を楽しんでいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者同士で、洗濯物をたたんで頂いたり干して頂いている。施設内の掃除にも参加いただいている。</p>		

V アウトカム項目( ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム湯来

作成日 平成30年9月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		トイレ誘導・回数	30回を20回にする。	声掛けをし時間の確認や本人と一緒にチェックをする。	3ヶ月
2		利用者同志のトラブル	トラブルを無くす。	距離を置く。職員が早めに行動する。	直ぐに
3		排便管理	排便のコントロールが上手くできるようにする。	薬の調整や、入浴前の排便。	2ヶ月
4		床に唾を吐く	床には唾を吐かないようにして頂く。	ティッシュの使用を促す。義歯の装着。	1ヶ月
5		被害妄想	不穏を減らす。	訴えが有るときは傾聴し対応する。	3ヶ月
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。